

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

## テレビ静岡 2021年4月度 番組審議会概要

2021年4月8日（木）

14時00分～

テレビ静岡本社 4階 会議室

### — 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子 木村 精治  
上柳 正仁(欠席) 飯野 勝己 松本 恵司 山本 正博

### — 議 題 —

番組名 「東日本大震災10年 静岡の未来につなぐ教訓」  
(テレビ静岡防災特別番組)

放送日時 2021年3月12日（金） 16時00分～16時50分

制作著作 テレビ静岡

### — 番組内容 —

1万8,000人を超える死者・行方不明者を出した東日本大震災から10年。子供の津波避難や、商業施設での安全確保はどう行われたのか。

下田市の小学校では避難場所への道順や時間を記した地図作りを行い、津波に備える取り組みを行っている。静岡市葵区の商業施設は震災時の対応を学ぼうと実践的な訓練を行い、防災力の向上を目指している。釜石市の避難訓練を静岡の学校現場に生かそうと考える教師の願い、福島から避難した家族の思いは…。

私たちが備えるべき南海トラフ巨大地震は、東日本大震災より広い範囲での震度7の激震や、10mを超える津波のおそれもある。「備え続けること」と「伝えていくこと」。静岡に暮らす私たちが未来に生かすべき教訓について考える。

— 審議概要 —

- ◎10年前に現地でボランティアや視察をしたことを思い出した。と同時に、当時の記憶も、防災意識も薄れてきていることに気づかされた。
- ◎避難訓練や対策など、これまでどちらかというと教科書的、マニュアル的だったが、実践的な取り組みや対策が紹介され参考になった。まちづくりの視点からも貴重な意見だと感じた。
- ◎出演者の言葉はどれも印象深く、心に残り、自分も何かやらなければと再認識させられた。
- ◎避難訓練を通じて子供に学びや発見があり、学年に応じた段階的な防災教育と、継承の大切さを感じた。継承していくことでその学校の地域の特性に合わせた文化が形成されていくと感じた。
- ◎多くの震災関連の番組は犠牲者を悼む、鎮魂することに視点が置かれがちで、もちろんそれは大切なことだが、この番組は、静岡らしいリアルな地震の脅威を前提とした、非常に実践的な視点で構成されていた。
- ◎震災から10年でハード面は整ってきた。今後は判断力などソフト面が重要と痛感した。
- ◎10年前の実際の震災の映像と最近の2月の地震の映像、さらに静岡の映像があり、右上にテロップが出ていたものの、どの映像なのかわかりにくかった。
- ◎私たちが身の回りでできることなど、小さいことでも具体的な提言があれば、自分が何をしなければいけないか、より自分ごととして捉えられるのではないか。
- ◎SNSの発達やコロナ対策など当時から大きく変わった点を、今にどう生かすかという視点も欲しかった。
- ◎東日本大震災を考えるうえで原発事故は避けて通れない。難しいとは思うが、番組で浜岡原発について何らかの形で触れた方が良かったのではないか。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りの参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は2021年5月13日（木）の予定です。